

自由論題 8「中国の政治と社会」・報告 4

報告テーマ

習近平思想と〈改革開放転換〉の思想連関：歴代の党規約と政治報告の重要語句を手がかりとして  
‘Xi Jinping Thought’ and Political Ideas in the Transition Period of Reform and Opening-Up Policy

氏名(所属)

鈴木 隆(愛知県立大学)

要旨(800字程度)

2017年10月、中国共産党は、第19回全国代表大会を挙行政した。大会は、党規約を修正し、「習近平の新時代の中国の特色ある社会主義思想」(以下、習近平思想)を、全党の新たな指導思想に位置づけた。

本報告では、この習近平思想について、政治思想史的観点から初歩的な検討を加える。その際、1949年の人民共和中国建国以来、歴代の党大会で採択された党規約の大綱(総綱)部分、及び、各政治報告に現れた4つのキーワード(強国、中華、愛国、党の指導)に着目し、それらが使われている文脈や意味内容、登場回数の変化などについて、歴史的な比較分析を行う。この作業を通じて、中国共産党史、特に党内の政治潮流における習近平思想の位置づけ、さらに、習近平思想の多くの割合を占めるであろう習近平総書記個人の政治思想の特徴を明らかにする。なお本報告は、筆者が現在取り組んでいる習近平個人研究の一部でもある。

本報告の主な結論を簡単に先取りすれば、習近平思想と習氏個人の政治思想において重要な2つの要素、すなわち、①秩序の立て直しと規律の厳正化を目指した「党の指導」の強化と、②国家目標としての「強国」追求は、1970年代後半から80年代初めの、文化大革命後期から改革開放の転換期の政治思潮に、その思想的起源の一端を有するというものである。

例えば、習近平が、19回党大会の政治報告と党規約で提出した「社会主義現代化強国」とは、11回党規約・11期3中全会・同6中全会の時点まで、すなわち、1970年代後半から80年代初めの〈改革開放の転換〉時期にまで遡って、追求すべき国家像を復活させたものとみることもできる。

改革開放政策の開始から40周年の節目に当たる2018年を迎えるに際して、習近平のリーダーシップの下、改革開放の原点に立ち返る形で、「社会主義現代化強国」の言葉は、19回党規約において、「新時代の中国の特色ある社会主義」の国家目標として、返り咲きを果たした。これこそまさしく原点回帰であり、習近平の好む言葉にして、19回党大会のテーマである「初心を忘れない」ということにほかならないであろう。

以上。